



Data

監督・脚本：吉田大八
 原作：吉田和正『結婚詐欺師・クヒオ大佐』
 出演：堺雅人 / 松雪泰子 / 満島ひかり / 中村優子 / 新井浩文 / 児嶋一哉 (アンジャッシュ) / 安藤サクラ / 内野聖陽

👁️👁️ みどころ

こりゃ個性俳優堺雅人の代表作に！徹底的に尽くしてくれるバカな弁当屋の女社長（松雪泰子）や、若い身体を捧げてくれるエリート学芸員（満島ひかり）のお陰もあり、つけ鼻をしたクヒオ大佐＝堺雅人の騙しのテクニックは絶好調？クヒオの日（9月10日）に配布された「夕刊恋愛サギ」では「結婚詐欺クヒオ大佐 女性食べ物に？」と報道されたが、なぜ女たちはこんな男にコロリと騙されるの？「私に限って・・・」と思っているあなたが、一番騙されやすいのかも？その意味では、騙す側も騙される側も、こりゃ必見！

* * * * *

あの時の日本の国際貢献は？

2009年8月30日の日曜日は、1945年8月15日を描いた『日本のいちばん長い日』（67年）に比肩するような、戦後最大の「日本のいちばん長い日」となった。それは国民による直接投票という最も民主的な手法によって、自公政権から民主党政権への「政権交代」が実現したからだ。希代の詐欺師クヒオ大佐（本名竹内武男）ことジョナサン・エリザベス・クヒオ大佐（堺雅人）を主人公とした本作の評論は、なぜそんな固い書き出しから？

それは、本作が第1部と第2部に分かれており、第1部では1991年1月17日から2月28日までペルシャ湾岸で展開された、アメリカ合衆国を中心とした多国籍軍によるフセインが支配するイラクへの戦争＝湾岸戦争が描かれているからだ。湾岸戦争はイラクへの空爆を内容とする「砂漠の嵐」作戦から始まり、「砂漠の剣」作戦と名付けられた地上戦であっさりとは片づいたことは周知のとおりだ。そこで問題は、憲法9条をもつ日本国は

あの時どんな国際貢献をしたのか、ということだ。

映画の冒頭、あの当時ニュースでよくみた湾岸戦争のシーンが登場する。えっ、こりゃ何の映画？誰もがそう思うはずだが、その直後内野聖陽演ずる某省の官僚藤原が流暢な英語で話している姿が登場する。電話が終わった藤原が政治家諸氏（？）に対してクールに語るのは、湾岸戦争に対する日本の負担金は90億ドルが落としどころだということだが、さてその是非は？時の内閣総理大臣は橋本龍太郎、自民党幹事長は小沢一郎だ。この時小沢一郎は「米国から要求される前に日本独自の方針を打ち出す必要がある。財政支援は最低で100億ドル。戦争がどうなるかわからないし、頭金みたいなものだ」と言い放ったらしい。そして結果的に1990年9月14日の40億ドル、1991年1月24日の90億ドル、追加の5億ドル、計135億ドルが日本の湾岸戦争拠出金となったわけだが、さてそんな日本の国際貢献を、世界はどう評価？

現在の日本の国際貢献は？

308議席を獲得した民主党は7議席の社民党、3議席の国民新党との連立合意を9月9日夕刻に成立させたが、社民党との連立で問題になるのは外交・安全保障政策。とりわけ沖縄の普天間基地の移転問題。また、差し迫った重要なテーマは自公政権のもとで2001年11月に成立した「テロ特措法」にもとづき、同年12月から始まった海上自衛隊によるインド洋での給油活動を、継続するのか停止するのかという問題だ。民主党は総選挙の前から「2009年1月に期限を迎える給油活動の期限延長をしない」という方針を示し、代替案としてアフガニスタンへの人道復興支援の増額を検討していた。それに対して、社民党の要求は即時撤退。こんな両党がホントに連立政権を？

インド洋での海上自衛隊の給油活動は日本の国際貢献として高く評価されていたが、政権交代が実現したからといってホントにそれをやめてしまっているの？吉田大八監督が描く本作の第1部は、政権交代が実現した今、そんな現実の外交・安全保障問題についての重要な問題提起？

「クヒオの日」に「夕刊恋愛サギ」と共に

9月10日は何の日？それはクヒオの日。つまり、ク(9)ヒ(1)オ(0)だから。そんなムリヤリこじつけたクヒオの日(9月10日)に設定された試写室で、『クヒオ大佐』を鑑賞。

その時私が手にしたのは、「自称海軍パイロット、弁当屋女性と愛の逃避行」「結婚詐欺クヒオ大佐 女性食い物に？」などのトップ記事が目を引く09年9月10日発行の「夕刊恋愛サギ」。ちなみにその最終ページの見出しは「なぜ！？こんな美女たちがこんな男に騙されたのか」だが、この夕刊紙は、女たちの心と一億円を奪ったという稀代の詐欺師クヒオ大佐が結婚詐欺容疑で逮捕されたことを報じると共に、「なにゆえその大嘘を被害者の

女性たちが見抜けなかったのが、最大の謎である！？」と結んでいる。

本作の公開日にもこんな「夕刊サギ」が販売されているのかどうかは知らないが、クヒオ大佐の結婚詐欺の全貌を理解すると共にその背景を深めるには、やはりこんなプレスシートやパンフレットが不可欠では？

こりゃ堺雅人の代表作に？

『アフタースクール』（08年）は最高に面白い映画だった（『シネマルーム19』213頁参照）が、そこでの堺雅人は大泉洋、佐々木蔵之介という3人の芸達者な主人公たちの中の1人だった。それに対して、『ジャージの2人』（08年）や『南極料理人』（09年）での堺雅人はもっと存在感のある主役だったが、作品としての出来はイマイチだった。しかして、本作は全編を通じてクヒオ大佐を演ずる堺の演技力によって成立する映画だが、さて彼の熱演は？

本作における堺雅人の外見上の変化は高い鼻。これは、怪しげな日本語を操るアメリカ人になりきるための必須アイテムだが、さてその効果は？他方、本作における堺雅人の服装は『7月4日に生まれて』（89年）や『トップガン』（86年）におけるトム・クルーズばりの米空軍パイロット風の服装だが、何でもレンタルが流行る今の時代、そのレンタル料金はHow much？

本作で見せる堺雅人の演技は稀代の詐欺師としてのしゃべりや仕草は勿論だが、稀代の詐欺師の上に行く（？）銀座のNo.1ホステス須藤未知子（中村優子）によって手玉にとられる姿や、ウソがバレた時のちょっと困った表情、さらには完全にウソがバレてしまった時の居直り方など、幅が広いうえ、それぞれが奥深い。そんな熱演ぶりからいっても、本作は堺雅人の代表作に。



バカな姉にはバカな弟が？

『フラガール』（06年）や『容疑者 X の献身』（08年）ではしっかりと自分の意見を持った女を演じた松雪泰子が、本作では男に騙されるバカ女の典型のような、弁当屋女社長の永野しのぶを演じている。本来、おふくろの味を売りものにする弁当屋は、美人で頑張り屋のオーナーしのぶが第一線で指揮をとっていれば経営は順調なはず。それは、小西真奈美主演の『のんちゃんのり弁』（09年）を観るまでもなく明らかだ。ところが、都内の人気宅配弁当店であるはずの店の経営が苦しくなり、仕入れ先への支払が遅れたり、挙げ句の果てに従業員への給料まで遅れるようになったのは一体なぜ？

最近のしのぶの電話では、弁当屋に関係のない世界平和などという言葉が飛び出している。うえ、電話のあと社長は時々雲隠れ。そのうえ、夜遅くまで帰って来ないことも。こりゃひょっとして、女社長はヘンな宗教に凝り始めたのでは？

他方、正直者で真面目一辺倒の姉に対して、世間の裏街道を歩いてきたような弟の永野達也（新井浩文）が、姉を騙して金を貢がせているクヒオ大佐の本性をすぐに見抜いたのはさすが。しかし、姉がバカなら、要領だけでカマして生きてきた弟もかなりバカ。詐欺師の上前をハネてとりあえず100万円を要求し、それを実現させたのは良かったが、その100万円の出どころは？

あの美女がなぜ？

237分の超大作『愛のむきだし』（08年）は園子温監督渾身の問題提起作だったが、私がそこで注目したのが、満島ひかりと安藤サクラという2人の若手の新進女優。とりわけ、ヒロインのヨーコ役を演じた美女満島ひかりのキレイい演技にはホレボレしたが、意地悪なコイケ役を演じた奥田瑛二の娘安藤サクラの怪演も面白かった（『シネマルーム22』276頁参照）。

吉田大八監督は本作でそんな注目の若手女優2人を起用し、一方では博物館の上司高橋幸一（児嶋一哉）を奪い合う女同士のバトルの様子を、そして他方では、なぜこんなエリート芸員がこんな詐欺師に？と思うほどクヒオ大佐に惹かれ、お金こそ奪われないものの見事に身体を奪われてしまう浅岡春（満島ひかり）のバカな女心を描いていく。高橋は春の元カレだったらしいが春には今や何の未練もなく、言い寄られるとうとうしいだけの存在だから、同僚の木下理香（安藤サクラ）と隠れてイチャイチャしていてもノープロブレムのはず。しかし、春がクヒオ大佐の甘い誘いに乗ったのは、やはりそれがショックだったから？

そんな春の心の空白に見事に入り込み、ラブホテルで春の身体をゲットするに至るクヒオ大佐のアプローチの仕方はお見事としか言いようがない。しかし、理香からも「やっぱり、あのパイロットは怪しいよ」と言われたくらいだから、春だって心のどこかでクヒオ

大佐のインチキ性を感じていたはず。したがってレンタルショップに行けばいくらでも米軍パイロットの制服がレンタルできることを知った春の怒りはいかばかり。彼女がクヒオ大佐に問い詰めたのは、「なぜ、あなたのターゲットがお金も持っていない私のの？」ということだが、さてそれに対するクヒオ大佐の回答は？それにしても、あんなに元気はつらつとしていた美女の春が一体なぜ？

どれが本当でどれが嘘？ どれが現実でどれが夢？

私は今日まで、「24時間仕事、24時間遊び」をモットーとして生きてきたが、クヒオ大佐くらいの天才詐欺師になるとそれと同じように（？）しゃべっているうちに自分でもどれが本当でどれが嘘かわからなくなるようだ。つまり、どんな嘘でも熱意をもってしゃべり実行していけば、いつの間にか彼の頭の中ではすべて本当となってくるわけだ。したがってクヒオ大佐は、他人から「お前は嘘つきだ」と言われるのが大キライ。だって、彼には女を騙して金を貢がせているという意識は全くなく、女が望むことを実現しているだけだと思っているわけだから。「盗人にも三分の理」とはよく言ったものだ。

そんなクヒオ大佐にとって、自分の詐欺がバレて警察に逮捕されるというのは、いかにも受け入れがたい現実。自分は米軍パイロットなのだから、イザという時は海兵隊なり何なりが自分を救助に来てくれるはずだ。そんな夢と現実が混ざり合った本作のラストは実に面白い。私は吉田大八監督の『腑抜けども、悲しみの愛を見せろ』（07年）を見逃したままだが、本作のラストのつくり方のすばらしさをみると、やはり『腑抜けども、悲しみの愛を見せろ』は観ておかなければ・・・。

教材としては、『沈黙の艦隊』より〇〇？

女は愛する男のすべてを受け入れる動物？本作におけるしのぶの姿をみているとそれがよくわかる。しかし、そもそも女性は世界情勢や世界平和には関心が薄い。したがって湾岸戦争以降アメリカ軍が世界平和のために多くの犠牲を払って展開している諸活動に対する理解が不十分なのは仕方ない。そんなしのぶに対してクヒオ大佐が教材として「これを、読みなさい」と推薦した本は、何とかわくちかいじの『沈黙の艦隊』だったからビックリ。

週刊モーニングに1988年から1996年にかけて連載された『沈黙の艦隊』は私の絶対的な愛読書だ。しかしこれは、日本の原子力潜水艦「やまと」が独立宣言をするというのがメインストーリーだから、あまりクヒオ大佐の意図したことの学習にならないのでは？私がクヒオ大佐の立場に立てば、しのぶにお薦めするのは、やはりベトナム戦争を描いた名作『プラトーン』（86年）や、2001年の9・11テロに関する文献や映画。なぜなら、そこにはアメリカ合衆国の犠牲的な国際貢献がタップリと描かれている（？）から・・・。

2009（平成21）年9月11日記